

中等部・高等部

TLP「自由学園を知る」「キリストを知る」

松坂政広 村上 民

自由学園は創立100周年を迎え、学園の礎として大事にしてきた「思想しつつ、生活しつつ、祈りつつ」を教科としても位置づけることになり、「TLP」を設置しました。女子部、男子部から共学化された中等部、高等部へと移行するこの時期に、3年間の助走期間を経て、中1から高3までの6学年で、通年で取り組む教科として、2024年度より船出しました。中1と高1では「自由学園を知る」、中2、中3、高2、高3では「キリストを知る」学びが始まりました。中等部、高等部の最初の学年で、自由学園の歴史を学び、学園を紹介したり、TLP新聞を構成したりとの取り組みを通して、ますます学園に親しみを覚えるように導かれています。中2では、旧約聖書を通して、中3では、新約聖書を通して、高2では、キリストの39の御名と福音書のたとえ話を、高3では、2000年の教会の祈りとわたしたちの祈りを思いめぐらします。詳しくは、以下の記事をご覧ください。

【自由学園を知る】

1. TLP「自由学園を知る」の概要

対象: 中等部1年、高等部1年、通年、週1回

担当: 村上民(中等部2クラス、高等部3クラス)

菅原然子(中等部1クラス)

TLP「自由学園を知る」では、今年度から一年間かけて創立者・羽仁もと子(1873-1957)、羽仁吉一(1880-1955)の生涯と思想、自由学園史(1921年創立～現在)を取り扱った。生徒たちが様々な時代に作成された記録資料の実物にふれ、草創期の校舎・自由学園明日館や南沢キャンパスを歩き、現在の学校生活を「歴史的に」眺める体験を重ねることで、一人ひとりがこれから自由学園で学び、自由学園を創りだしていくことに対して深い関心や興味が生れるよう努めた。主なテーマは以下の通り。

【春期】

- ・創立者・羽仁もと子、羽仁吉一の生い立ちと青年時代
- ・二人の結婚と出版事業～「家庭」を拠点とした信仰と仕事
《小テスト 羽仁夫妻の結婚写真を自分の言葉で解説する》
- ・どんな学校をつくらうとしたのか

① 「自分の生(いのち)」の経営 ② 学び方を新しく
《自由学園明日館(自由学園草創期の校舎)の見学》

【秋期】

- ・どんな学校をつくらうとしたのか ③ 礼拝のはじまり
- ・学校から社会へ

関東大震災救援活動、学生委員会、卒業生の社会活動

- ・自由学園10周年、第6回世界新教育会議

- ・学校の広がり 新しい土地・南沢、小学校、男子部、幼児生活団、北京生活学校

《南沢キャンパスを歩く 各部校舎、大芝生、慰霊碑等》

- ・戦時下の自由学園 ・終戦直後の自由学園

- ・創立者晩年の声を聴く

- ・第二代学園長時代 1957-1980年代

- ・伝統の再創造を目指して 1990年代～現在

《TLP新聞 制作と批評》(後述)

上記カリキュラム策定および授業については、自由学園資料室員2名(アーキビスト、中高教員資格有)が担当した。毎回のテーマと配布資料については中高共通とし、中1は基礎的な内容を、高1では時代背景等を含むより詳細な内容を扱った。教材として、自由学園独自の記録資料(アーカイブズ)の実物を多く用い(後述)、これらの実現のために授業中に一人一冊ずつ使える『自由学園一〇〇年史』を備えた。毎回の授業を図書館内の2階中教室で実施した。

2. 授業方法・教材について

2.1 生(なま)の記録資料にふれる

「自由学園を知る」において何よりも重視したのは、自由学園の「創立者の思想」や「自由学園の歴史」を、固定的なストーリーや「正解」として覚えさせるのではなく、自由学園

の本物の、生(なま)の活動記録を生徒たちの目の前に差し出すことだった。個人や組織の活動記録である様々な「記録資料」(紙資料、写真、音声、映像等)を実際に見たり読んだり聞いたりしながら、その時代に生きた人々がどのように活動し、誰に何を伝えようとしてきたのかについて、複数の記録資料から読みとっていくプロセスを紹介することに努めた。

2.2 創立者の著作への新たなアプローチ

従来の「読書」(自由学園の教育理念等を創立者の書籍等から学ぶ授業)で用いられてきた『羽仁もと子著作集』、『我が愛する生活』、『雑司ヶ谷短信』等を創立者の人物理解や自由学園史の理解の助けになる「資料」として捉えなおし、積極的に使用した。その際、テキスト(書かれた内容)を用いるだけでなく、その著作(発言)の発表経緯や背景、関連資料と共に提示した。使用した羽仁もと子・吉一の著作は以下の通り。

- ・『羽仁もと子著作集第十四巻 半生を語る』
- 『同 第十一巻 家庭教育篇下』、『同 第十八巻 教育三十年』、『自由人をつくる 南沢講話集』
- ・『我が愛する生活』
- ・『雑司ヶ谷短信』

2.3 『自由学園一〇〇年史』および

デジタルアーカイブ「自由学園100年+」の活用

授業担当者2名が100年史編纂に関わってきたこともあり、上記書籍・DAについて、章末注や索引の使い方も含めて紹介した。また、いったん完成した100年史であっても、新しい資料や情報によって絶えず修正や加筆が行われ、歴史叙述は「動いている」ことも伝えるようにした。

このように、「記録資料を読む／読み直す」ことが身近になることで、ひいては「情報の批判的読解につながる」と期待したい。

2.4 「自分のTLPノート」をつくる

現時点では中高向きの自校史テキストがまとまっていないため、毎回の授業には授業担当者が10数枚のスライドと配布資料(関連の記録資料の抜粋等で構成)を準備し、手作りの教材で試行した。

生徒たちには、授業で自分として学び得たことを、板書も含めて(授業者はスライドを使用)できるだけ手書きでノートに記述し、「自分のTLPノート」を作成することを奨励した。授業終盤5分を振り返りの時間に充て、ノート整理をしました(村上は時間確保できない回も多く反省が残る)。なお、日本語が母語でない生徒や諸事情で書き取りに負担

が大きい生徒には別方法を用意した。長期休み前にノート提出(夏・冬2回)、確認、コメント、TLPスタンプ(最高学部学生によるデザイン)を記入し継続的な取り組みを促した。

3. TLP新聞について

年度末には、一年間学んできたことをもとに生徒自身がテーマを設定してまとめる「TLP新聞」(A3判)の作成に約1か月間取り組んだ。丹念に作成してきた自分のノートをもとにまとめる人、共学化1年目の生活を通して感じる問題を歴史的に探求する人、父親、祖父、友人、教員らにインタビューしてまとめる人、テーマがなかなか決まらず新しい資料にふれたり友人に触発されてテーマを見つける人など、様々なアプローチで新聞制作に取り組む姿があった。創立者の生涯、学園創立経緯、教育理念といった大きなテーマの他にも、キャンパスや校舎、寮生活、戦時中の自由学園、実際科、食、音楽や美術、体操などの芸術教育、初等部や男子部の歩み、ネパール植林、那須農場、習字、近年の自由学園の展開など多様なテーマが挙がった。仕上がった新聞について、クラスで見合って一人ずつ感想を述べ、クラスから推薦された新聞計24点を図書館内に展示することができた。

TLP新聞の取り組みは、授業担当者にとっても、生徒がどのような問題意識をもって自分たちの学校の歴史を知ろうとしているのかを学ぶ機会となった。今後も、現在の生徒たちが求め学ぼうとする願いや必要を受けとめつつ、様々な記録資料に丁寧に向き合い、自由学園をつくっていく者として大人も子どもも共に学びを深めていきたい。

【キリストを知る】

1. TLPキリストを知る;概要

対象:中等部2年、3年、高等部2年、3年通年、週1回

担当:松坂政広

TLPキリストを知る①は、中2通年の学びで、旧約聖書の祈りを思いめぐらします。旧約聖書がキリストを指し示していることから、旧約聖書を通してキリストを知ることができそうです。そこに祈りがあります。春期は、創世記と出エジプト記を読みました。特に創世記では、3組の兄弟に注目して、それぞれ、和解に導かれたか否かの経緯を辿り、その要因を吟味することは、今日のわたしたちにとっても、難しい人間関係に生きるヒントをいただきました。和解に導かれなかったケースは、そこに話し合いが一切ありませんでしたし、

和解に導かれたケースでも、話し合いがあったかと言われれば、否定せざるを得ないケースもありました。が、やはり幾重にも話し合いがあり、和解に導かれたケースは、わたしたちもそのことを望むもので、大いに参考になったかと思われまゝ。生徒さんのエッセイにもそのことが如実に表れていたかと思ひます。秋期は、ルツ記やヨブ記、エステル記、ヨナ書を読みまし。家族の人間関係や苦難に遭つたらどうするかなど、それぞれに独特のテーマがあつて、今日にも通じる実に興味深い生活や人生の学びにつながつたかと思ひます。

TLPキリストを知る②は、中3通年の学びで、新約聖書の祈りを思いめぐらします。新約聖書はキリストを証していますので、キリストを知ると同時にキリストに知られることを味わひ得る学びです。そこに祈りがあります。春期は、4つの福音書を、秋期は、パウロの手紙を読みまし。実際聖書を読んで、みことばとの出会いを経験し、学友と分かち合うことを心掛けています。マルコによる福音書では、キリストの十字架と復活という最後の1週間が、3分の1を占めていたり、最後の1日の出来事だけで全体の6分の1となっている意味を考えたり、福音中の福音と呼ばれる「失われた息子の物語」を味わひ尽くすことを試みたりしています。また、もっとも味わひ深かつたみことばを取り上げて、どのような理解に導かれたかを表現する機会を与えていただいています。

TLPキリストを知る③は、高2通年の学びで、春期は、聖書に出てくるキリストの39の御名をひとつひとつ味わうことで、キリストがどのようなお方で、わたしたちとどのようにかわつてくださるのかを知ることを心掛けましたが、意見交換をさらに充実させて、グループ学習の醍醐味を味わうことができるようにという課題があります。秋期は、福音書に出てくる36のたとえ話を吟味し、神の国がどのように描かれていて、キリストがどこにおられるかの醍醐味を味わうことができました。TLPの学びに参加する生徒さんの聖書との出会いを引き出すことができたらと祈っています。

TLPキリストを知る④は、高3通年の学びで、春期は、2000年の教会の祈りを通して、キリストがご自身の上にご自身の教会を建て上げてこられた経緯に触れ、秋期は、高3生にとって身近に思われる人生のテーマを掲げて、その探求を通して、キリストを知る、に導かれることを祈っています。

2. TLPキリストを知る;問いと祈り

TLPキリストを知るでは、上記の4年間で108の問いや祈りをめぐつて対話しています。キリストを知る①では、旧約聖書の物語を通して、わたしたちは親から子へと語り継いでいるか？ わたしたちには切実なものがあるか？ わたしたちにはこれだけは失いたくないものがあるか？ 人が命の息を吹き込まれて「生きた者」となつたとは？ 神が「あなたはどこにいるのか」と問いかけられたのは？ 人に許されていないことは？ 人がなれないものは？ 人が辿り着こうとしている家とは？ 逃亡者に約束されていたこととは？ 話し合いがもたらすものとは？ わたしはいったい何者か？ 何をなすべきなのか？ 粘り強い交渉がもたらしたものとは？ 十戒とは実は？ 人間が真の自由に生きる「生き方」を示していた！ わたしたちは何に頼つて生きていくか？ わたしたちは社会の変化をどのように見ているか？ わたしたちは何で結束を図っていくか？ わたしたちは何を守ろうとして立ち上がるか？ わたしたちの声はどこに響くか？ わたしたちは何に涙するか？ 歩んだ歴史が財産となるとは？ イスラエル祖国再建の祈りからわたしたちは何を学ぶか？ 人間の歴史は同じことの繰り返しなのか？ イエス・キリストはどのような人々の中に誕生したのか？

キリストを知る②では、新約聖書の物語を通して、新約聖書を味わわせてください！ 何を本当に守つたらいいですか？ イエスはどのような人でしたか？ あなたはイエスを何者だと言いますか？ 新約は旧約とどうつながっていますか？ 放蕩息子が悔い改めたのは？ ここに持ってきなさいとは？ ここにとは？ キリストの復活がなかったのなら？ 現代のキリスト教会にまで連続している歩みとは？ パウロの回心とは？ 母が子を育み、父がその子に対するような手紙で何と出会うか？ わたしたちが子であるゆえに味わひうる手紙で何と出会うか？ キリスト教 Q&A が味わえる手紙で何と出会うか？ 自分自身をどの視点からとらえるかが味わえる手紙で何と出会うか？ 信仰による義を味わひうる手紙で何と出会うか？ 教理と倫理を味わひうる手紙で何と出会うか？ わたしたちの平和が何かを味わひうる手紙で何と出会うか？ 教会の指導者に語りかけた手紙で何と出会うか？ 信仰と行為の整合性を問いかける手紙で何と出会うか？ 苦難の中の希望を味わひうる手紙で何と出会うか？ 神が愛であることを味わひうる手紙で何と出会うか？ 黙示録が語りかけている3つのこととは？

キリストを知る③では、キリストの39のみ名と福音書のた

とえ話を通して、門を出入りして、牧草が見つかるように！
良い羊飼いに導かれて羊が命を得られるように！不思議な
助言者を通して大事なことが気づかれるように！力ある神
と出会って逆説的な真理が導かれるように！永遠の父を通
して十字架で何が償われたかが分かち合われるように！
平和の君を通して平和がどのようにもたらされる(実現する)
かを共に見つめたい！インマヌエルを通してわたしは共に
いるよと語りかけている！神の小羊を通して神の小羊は何
を取り除いたのかが分かち合われるように！ことばは永遠
のはじめにすでに存在していた！キリストは他の宗教指導
者と何が違うのかが分かち合われるように！キリストがアル
ファ、はじめであり、オメガ、おわりであるから、安心でき
る！種まく人のたとえを通してわたしたちはどこでみことば
を聴いたらいいのかわかる。わたしたちはなぜ狭い門か
ら入っていくのですか？宴会のたとえを通してあなたはど
こで食事をしたいのですか？ミナのたとえを通してわたした
ちは何を管理するよう託されていますか？退けられた石が
隅の頭石となるとは？不正な管理人を通して友を作る/ゆる
しあうとはどういうことなのだろう？わたしたちはいつまで祈
り続けますか？いちじくの木のとえを通してキリストはわ
たしたちに何をしてくれたのですか？再臨のたとえを通
して備えているのは、備えられているから！失われた息子の
たとえを通して、わたしたちはどこで父の愛を知ったので
すか？良いサマリヤ人のたとえを通してわたしたちは自分
をだれと重ね合わせますか？ぶどう園の労務者のたとえを
通して神の目にフェアであるとは？

キリストを知る④では、2000年の教会の祈りを通して、信
教の自由をわたしたちに与えてください！自由をわたした
ちに与えてください！与えられて感謝します！真理をわた
したちに教えてください！迷いの霧からわたしたちを導い
てください！あなたをわたしたちはどのように表現したい
のですか？何にわたしたちは勝利したらいいのです
か？権威をわたしたちに明らかにしてください！何にわた
したちは抗議したらいいのですか？あなたはわたしたちを
どのように創造されたのですか？依存と信頼のちがいを体
験させてください！何をわたしたちは祈りますか？さら
には、神はわたしたちに何を託されたのですか？何のため
にわたしたちは選ばれたのですか？わたしたちは一体何
者ですか？わたしたちはどんな祈りに導かれ得るのです
か？わたしたちはどんな喜びを経験し得るのですか？わ
たしたちは愛を知っていますか？何が本当に幸いなので

すか？わたしたちが賛美するとはどういうことですか？主
の祈りは何の祈りですか？助け手との出会いに導いてくだ
さい！対話したいです！わたしたちを和解に導いてくださ
い！人生とは家に辿り着くことです！その家とは？

以上のような「問い」を生徒と共有し、それぞれが考え、
語り合うことを目指して授業を進めています。

3. TLPキリストを知る;対話

TLPキリストを知る①では、問いや祈りをめぐっての対話
例として、これまで以下のような参加者の反応がありまし
た。「わたしたちが辿り着こうとする家は、自分にとっての真
実で、自分の軸や心の居場所、そのために生きてきたもの
で、自分とは何かを理解した時に辿り着いたことにな
る。」「人生で最も大きい目標と人生を努力して生活するこ
と。沢山の笑顔と感謝のことばがあふれ、温かさで満たされ
た場所。」「ここが落ち着くと思った場所。帰れば、ほっと
できる、安心できる、笑い合える居場所に、今から出会っ
ていこう。」「信頼できるパートナーや家族、友人のこと。家族
の愛と近所の人の温もりで、人生が楽しくなるし、気持ちも
穏やかになる。」「みんなが神のいる天国に辿り着こうとし
ている。」などが問いかけと祈りに対する対話として挙げられ
ました。

TLPキリストを知る②では、「放蕩息子のたとえの中に、
「いなくなっていたのに見つかったのだ」ということばがあ
る。このことばには信仰から離れてしまった人をも神さまは
戻るのを待ち続けてくださっているという「愛」が現れてい
る。放蕩息子のたとえには、父親と2人の息子が出てくる。
父親は神さまのことで、息子はわたしたち人間のことを指し
ているのだと僕は理解している。」「人は時に信仰を忘れ、
神さまを自分のいいように使っています。そして罪を犯しぼ
ろぼろになった時に信仰に立ち返り、神さまのもとに戻る。
なんとも自分勝手だ。もし自分がいいように使われたら、怒
りを隠せない。しかし、神さまは人間のいいように使われて
も、罪を犯してぼろぼろになったわたしたちを「いなくなっ
ていたのに見つかったのだ」と言い、喜んで迎え入れてく
ださるのだ。僕も、信仰から離れてしまった時、そのことを
思い出して神さまのもとに帰れるようになりたい。」とコメント
してくれた参加者がいました。

TLPキリストを知る③では、「神の小羊がわたしたちの罪
を取り除くとは、がんの摘出手術みたいなことと考え、それ
が十字架に移されたことで、罪の重さを感じた。」「神の小

羊であられるイエスは、良い羊飼いで、その門から入る一人一人をきちんと覚えていてくださっている。その深い愛にちゃんと触れられた。」「わたしたちは見過ごされる存在ではなく、イエスの愛と配慮の中にいることを知って、胸の奥が温まるのを感じられた。」「狭い門から入るとは、一人一人の姿がそのまま見極められ、一人一人の状態を確認し、癒すべき人を取りこぼしのないように見、愛するための門なので、自分が受け入れられるという確かな安心があると思った。」などが問いかけと祈りに対する対話として挙げられました。

TLPキリストを知る④では、「分裂はなぜ起こるかに関しては、分裂は、互いを思いやり合った時にも起こり得るもので、自分がありのままにいられる自由と居心地の良さを、自分を縛るもの、息苦しさからの解放を求めているからこそ起こるもので、分裂の必然を認めるとの意見も存在する。」「本音で向き合ったからこそ起こる感情がぶるかったことによる分裂は、関係を見直すチャンスであって、自分を成長させてもくれ、何かを見つけるための通過点でもあるとの見方があり、分裂は必ずしも否定的なことばかりではないけれども、互いのプライドがぶつかったり、わかり合えなかったり、譲れなかったりして起こる。」「自分が正しいと強く思うから、

相手の考えを思えなくなり、自分しか視野に入らなくなることが分裂につながる。という見方がある。そのように考えると、分裂や対立や紛争の火種は、すでに存在していて、価値観の違いや異なる歴史や宗教、思想がぶつかり合い、それらを理解し合えなければ、より深刻なものになるとも考えられる。つまり、分裂の原因は、人の中にある受け入れない心で、対話をし、互いを認め合うことができればよい形で一つにまとまり得るとの見方も存在する。」「一人一人考えをもっていて、性別や性格、身分なども含め、自分と違う人を排除しようとする傾向があり、分裂は避けられないとの見方もある一方で、相手を知って共に生きていく関係が生まれる可能性もまた存在する。」との感想が寄せられました。

まとめ

「キリストを知る」を4学年にわたって通年で辿り、108の問いかけと祈りを、対話する試みの一端としてそれぞれに示しましたが、始まったばかりのこの営みが、主に導かれて参加される生徒ひとりひとりにとって意義深いものとなることを願ってやみません。わたしも共にその恵みにあずからせていただきます。